

## 滋賀県草津市内の若い世代のお母さんに向け防災講座を実施 ～ 災害への備えについて考えてもらいました ～

日本損害保険協会近畿支部（委員長：柿木 一宏・東京海上日動火災保険株式会社専務取締役）では、9月19日（木）滋賀県草津市北部子育て支援拠点施設「ココルひろば」が主催する「防災講座」への講師派遣依頼を受け、近畿支部防災博士（※）の岩井和子さんと近畿支部茨木職員が講師を務めました。

当日は、7組の親子（保護者と乳幼児）が参加しました。元日の能登半島地震、8月8日の日向灘地震による南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）発令など、立て続けに大きな地震が発生していることもあり、お母さんたちの関心も高く、熱心に耳を傾けていただけました。

まず茨木職員から、阪神淡路大震災や大阪北部地震、平成30年台風21号による帰宅困難の経験談も交え、避難場所と避難所、いざという時の備え（0次・1次・2次に分けて備える）、草津市のハザードマップなどについて、避難所などへ避難する場合に背負えるリュックの重さの体験してもらいながら、説明をしました。

また、岩井防災博士からは、大判ストールを非常持出品として1枚入れておくだけで授乳ケープとして使えることなどを説明し、結び方を実演しました。

参加されたお母さんからは「何かあったとき、赤ちゃんと一緒にあの重いリュックを背負って避難することはとても大変ということが分かったので、良い心づもりになった。」、「ワンオペのときの避難の仕方考えた。」、「普段は育児のことで頭が一杯で災害時のことについて考えることがなかったが、災害時の行動や対策について改めて考えることができ、良い機会になった。」、「わかりやすく参考になった。0次の準備が大切とわかったので日頃からやっておこうと思う。」、「防災・減災の備えも大切だが、まずは自分の命を守ることが大切と学んだ。」などの感想が寄せられました。

当支部では、今後も防災博士や関係機関・団体等と連携し、各種防災教育の普及啓発に取り組んでまいります。

※防災博士とは…近畿地区における安全・防災活動に対し、積極的に協力いただける方を「防災博士」として委嘱しており、近畿支部防災博士は地域のリーダーとして安全・防災活動に貢献しています。



避難時のリュックの重さを体験している様子



身近な物が役立つことを説明する様子